

＜対策のポイント＞

世界的に「水利用効率の大幅改善」に向けた取組強化の機運が高まっている中、国際連合食糧農業機関（FAO）を通じ、水利用効率の向上に資する持続的な水田農業について、我が国の優れた知見・技術等の普及を推進します。

＜事業目標＞

アジアモンスーン地域等の持続的な食料システムのモデル構築（1件以上〔令和9年度まで〕）

＜事業の内容＞

国際連合食糧農業機関（FAO）は、持続可能な開発目標（SDGs）ターゲット6.4において掲げられた「2030年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善」についてのグローバル指標をモニタリングする担当国際機関であることから、水利用効率改善に関する情報・議論が集中するため、当該機関に専門家を派遣し、下記の取組を行います。

- ① FAO、国際会議等において、水利用効率に関する情報収集を行います。
- ② アジア・アフリカ地域における水利用効率の向上に向け、これまでに我が国の専門家が提案した改善策に基づき、我が国の技術普及や人材育成に向けた実証を行います。
- ③ 国際かんがい排水委員会（ICID）や国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）等の国際機関・ネットワークと連携し、水利用効率の向上に資する持続的な水田農業について、我が国の知見・技術や実証成果を国際会議等で発信し、普及を図ります。

〔事業実施期間：令和7年度～令和9年度〕

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

背景・現状	SDGsターゲット6.4
世界の水需要は、2000年から2050年までに約55%の増加が見込まれている中、農業用水の使用量を増やす余地はほとんどないとされており、農業用水の効率的な利用が求められている。 ➡ 水田農業においても、水利用効率の向上が必要であり、我が国の優れた知見・技術等を活かした貢献が求められている。	・ 全セクターにおける水の利用効率の大幅な改善を掲げる ・ FAOがグローバル指標のモニタリングを担当 ➢ 指標6.4.1：水利用効率 全ての経済活動による水利用を対象とし、経時変化を監視

専門家を派遣し、水利用効率の向上に資する水田農業について実証を行い、我が国の知見・技術等を普及



期待される効果

- 世界の食料安全保障及び途上国の経済成長へ貢献します。
- 水利用効率の向上に資する水田農業について、我が国の知見を国際会議等において発信することにより、国際的な議論をリードし、世界の水田農業の発展を主導します。
- 我が国の技術普及を通じて、本邦技術の海外展開の促進に貢献します。

技術普及

国際会議への参加

【お問い合わせ先】（1）輸出・国際局新興地域グループ（03-3502-5913）
（2）農村振興局設計課海外土地改良技術室（03-3595-6339）